

# 木のいえ一番ゼミナール木塾 経年で美化する建物を目指して 2.経年変化で起きること 理解度確認テスト

名前 \_\_\_\_\_ 理解度 \_\_\_\_\_ /100

Q. 動画内で紹介した経年変化で起きることについて、空欄に適切な語を記入、もしくは選択しなさい。

※同じ番号が繰り返して出てくる箇所は、最初の番号に記載せよ

1. 経年によって、木材の表面に起きる変化を①( )という。

屋内ではあめ色に変化していき、仕上げ材として味わいが増し、経年美化と呼べるものである。

また、樹種によっては色が抜けていくものもあり、色の変化は②( 数年 / 数十年 / 数百年 )で落ち着く。

木は室内でもお手入れをすることで、新築時よりも好ましい仕上がりに変化していく。

2.

屋外では、③( )による動きで亀裂が発生。④( )を吸収することや、雨風の影響で穏やかに浸食され、表面が⑤( 凹凸 / 滑らか )になっていくこと、色が抜けてグレー化していくことを⑥( )という。これは、お手入れによって進行を遅らせることができる。

3.

木が湿った状態では、⑦( )や⑧( )が発生する。屋外では⑨( )の掛かる場所、屋内では浴室・洗面所や台所などの⑩( )や⑪( )する場所で発生する。表面の変化で⑫( )的な影響は小さいが、美観上気になる場合や屋内では、薬剤を利用し抑制・除去する。

構造に深刻な影響を与えるのは木材の⑬( )と⑭( )による食害であるが、被害の要因と危険箇所は限られているので、⑮( )とお手入れで防ぐことができる。木材を現わしで使うと構造材が見えているので⑮( )が容易で大事に至る前に、発見できる。

4. 木材の変形、収縮・割れは⑯( )が進み、⑰( )率が⑱( )%以下になると起こる。木材の⑰( )率は、分母が⑲( )の重さ、分子が⑳( )の重さで表される。

変形は、接線方向と半径方向の㉑( )率の違いにより発生するが、接線方向は半径方向の㉒( )倍の㉑( )率の為、外周側が多く縮んで反ったり、割れたりする。割れは㉓( )に向かって発生するが、部材を貫通する割れでなければ構造的な問題はない。

繊維方向の㉑( )率は、半径方向の㉓( )分の1と小さい。

変形を抑制するためには、利用する前に十分に乾燥させることが大切で、㉔( 自然にゆっくり / 人工的に急速に )乾燥させたり、表面を㉕( 低温 / 高温 )にするなど、様々な乾燥技術が開発されている。

